

新春 新特

水いがた

市の人口

人口	459,217 (+ 472)
男	225,052 (+ 218)
女	234,165 (+ 254)
世帯数	147,534 (+ 167)
57年11月末現在	

発行日	毎週日曜日
発行所	新潟市役所 新潟市内大通り番町 4番
電話	代表(28)1000
編集人	宮省三 (新潟市商工労働部)
印刷所	藤第一印刷所



新しい飛躍

走る走る新幹線が越後路をひた走る。太平洋沿岸に伸び続けた新幹線がついに日本列島を横断した。越後平野には、北陸・関越の高速自動車道も走り、港、空港の整備も進む。今新潟は大きく変わろうとしている。名実ともに日本海時代の幕明けだ。さあ、今日から新潟の新しい飛躍が始まる。

(写真は鳥屋野地区公民館で活動しているジャズダンス「チューズデイズ」の皆さん)

昭和58年を迎えて



若杉 元喜

新潟市長職務代理者
新潟市助役

昭和五十八年一月一日

市民の皆さま、あけましておめでと〜うございます。

昨年は、川上喜八郎市長におかれましては、健康上の理由から、止むなく辞任されるという、まことに残念な出来事で暮れてしまいました。川上さんは、七年七カ月余にわたって、市民生活優先の市政を、きめ細かに推し進められた、大きな成果を新潟の歴史に記されました。そのご功績に対し、心から敬服と感謝の意を表するものであります。

さて、ここ久しく吹き続く不景気風は、一向に止む兆しもなく、また新しい年を迎えることになりました。今年こそは、と頼うのは、皆さまとて同じ思いでございます。

晴いニュースも多かった中で、待望の上越新幹線が、昨年十一月、開通しました。首都圏との距離が飛躍的に短縮され、経済、文化など各方面での活性化が期待されます。同時にそのことは、日本海側の拠点都市としての新潟の役割と責任が、一段と大きくなったことを意味します。

大型プロジェクトの一つである新潟駅南口再開発事業も、再開発ビルのキー・テナントが決まり、近く着工されることから、事業の推進に弾みが付くこととなります。

「高速交通時代に突入した今こそ、新潟の良さを見直そう」との声が沸き上がっています。

四季に変化する新潟の海、水豊かな川、少ないといわれながらも緑、日本海に映える夕日―などは、掛けがえのない自然の恵みであります。しかし、私たちは、これらの恩恵を、本当に、上手に享受してきましたでしょうか。新潟ならではの特産品で、市民にあまり知られないまま、そと生き続けているものも多々あります。住みよい地域社会と新潟文化の創造のために、まず私たちは、これらの価値を再発見し、活かしていくことが大切だと存じます。

将来の新潟を展望するとき、今年こそは、「きめ細かな福祉に支えられた、たくましい都市新潟」への「第一歩目」と認識しているところであります。市民の皆さまの、温かいご理解とご支援をお願い申し上げます。